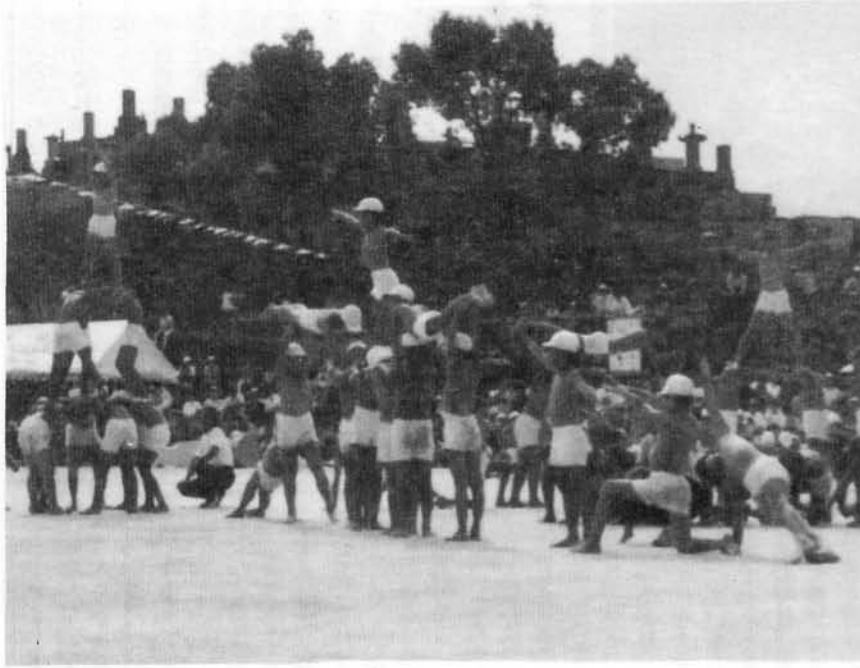


が ん ば

島三小育友会報
発 行 部
広 報 部

【第88号】



力をあわせて

あん子が……
たくましゅうなつて
となりのヤツくん!

が ん ば 会 運 動 会

組体操担当

田中益良先生

二学期が始まって二週目から練習開始、二週間余りの練習で児童に何を学ばせるのか、組体操の目標を何にするか。児童の実態を見ながら考えることにしました。

一、筋力が弱い 二、忍耐する心がたたりない 三、きびきびした動作がみられないの三点が実態としてうかんできました。これらは三小児童に限らず現代の子の特徴なのかもしれません。一については体力の問題だけに短期間での効果は期待できそうもないが、二と三については精神面なので「やればできる」と確信して、ここに指導の重点をおきました。そこで、チャイムと同時に練習開始を心がけ、高度な技は要求せず基本的な技を取りあげました。「痛くても声をだすな。」「きつくてまがまん

しる。」「一人動くのがおくれた。やり直し!」そんなきびしい声かとびかう中で日に日にみんなの演技がそろそろようになりました。なかでも、初めて取り組む五年生の上達の速さが目につきました。かげに五年の先生方の指導があったことは申すまでもありません。そのため、六年生との足並みもそろい全体練習もスムーズにいきました。

笛の合図とともに百七十名が一斉に動く。それが組体操の醍醐味である。その笛に心を集中させ、みんなと協力する中で児童は何かを得るものと思います。

三小の伝統的な種目になりつつある組体操。児童の体格だけは、どんどん大きくなる中で、本当のたくましき、きびしきを持つ児童は多くはいません。だから、組体操にまた、魅力を感じるのかも……。

自転車点検に参加して

交通部 大平 葉子

うつつうしい梅雨も明けた七月五日今年も又自転車点検が行なわれました。雨にたたられて二度、三度の延期の上やっと実行にこぎつけました。朝、町内の子供達が全員自転車を引いて一列に並んで登校します。

校庭に着くと、学年別、クラス別保険加入者、未加入者別に分けて自転車を置きます。全部がそろった頃点検の始まりです。しかし、いざ点検を始めてみると、バラバラに置いてあり、きちんと分けるのに相当な時間を用いました。

その間に自転車商会の山本さん、園田さん、又手伝いに来て下さった方がつきつきと点検を済ませて行き、後から合格シール、保険加入シールを貼っていきます。



少しぐらゐの故障は無料で直して下さる姿に頭の下がる思いがしました。

三百台余りの自転車を点検し終えたのは十二時を回っていました。子供達が一人も自転車による事故がない様にと願いながら、もしも事故に合った時の為に全員保険に加入にして頂きたいとつくづく思いました。

私は今年初めて自転車点検に参加してみ、本当に大変な仕事だということがわかりました。

夏休みキャンプ

“ファイヤーの火が”

六年一組

中村 美穂

七月三十日、三十一日、六年一組林田学級三十六名は、くれ石原キャンプ場に行きました。ここは今年からキャンプ場の設備ができた所です。着いてすぐにしたことは、たき木集めと、テント張りでした。テントは、全部で、六つ張りしました。しばらく遊んで、夕食を作る時間になりました。メニューは、カレーとサラダです。うまく出来る心配でしたが思ったより、おいしくできました。あとかたづけをすませたころにはもう、まっ暗になっていました。

そしてキャンプファイヤーときもだめしをしました。きもだめしでは、先生が、こわい話をされて、もり上がった所で、はじまりました。それは、はく力があって、ただの木ぎれも顔に見えたり、お父さんたちが木をゆらしたりするので、女子は、キャーキャーさけんでいました。

きもだめしが終わったあとには、ないている女子も、声がかれてる人もいました。そのあと、すいかわりをして、ねました。朝方には、雨がふったせいかはだ寒く感じました。とても楽しいキャンプでした。とてもよいおもいになると思います。

三小秋場所

団体戦

- 優勝 新山西A
- 二位 下川尻B
- 三位 西八幡

個人戦(三年)

- 優勝 高原 武
- 二位 吉田 功
- 三位 村上 陽介

(四年)

- 優勝 是枝 伸一
- 二位 川口 剛直
- 三位 友永 真一郎

(五年)

- 優勝 西田 浩一郎
- 二位 本多 功征
- 三位 井上 悟

(六年)

- 優勝 横田 伸天
- 二位 佐原 健太郎
- 三位 吉田 政彦



親子フットベースボール

Aパート

- 一位 南下川尻A、坂上、南下川尻B
- 二位 新山西二丁目B、湊町A、新山西二丁目A
- 三位 ナシ

Cパート

- 一位 みなと、下川尻
- 二位 白土桃山一丁目、浦田元船津、新山西A
- 三位 津町・有馬船津、崩山

Bパート

- 一位 栄町、坂下八幡
- 二位 霊南、湊町B
- 三位 白土桃山二丁目、新山西一丁目A

Dパート

- 一位 白山町
- 二位 西八幡、新山西一丁目
- 三位 湊町、新山西B、浦田上

国語を大切にしている日本人へ

「ヨーロッパ教育事情視察より」



四年生担任 松島 利彦

運動会を一週間後にひかえる中で心を残しながら九月二十二日北ウイング経由で成田出発。

まず、スタートから悩まされたのが時差。成田を二十二日の九時三十分に着いたのに、アンカレッジ着が二十二日の朝の十時五十分、さらにアムステルダムに着いたのが二十二日朝の六時四十分。つまり、簡単に言えば、二十二日の夜達って、二十二日の早朝に着いたと言うことである。

チェコ・スロバキヤ、オーストリア、フランスの三国で、学校訪問、文化施設、文化遺産見学等、息をつく間もないほどの過密スケジュールの中で、何でも見てやろ

う、何でも体験してやろうと、言葉の壁と戦いながらの二週間を過ごしてきました。

広大な土地、家並み全てが歴史を物語り、芸術であるウィーンやパリの街、兩岸に緑をたたえ、ゆったりと流れるドナウ川の船旅、写真でしか見たことがなかった有名な画家や彫刻家の作品が、全て現実のものとして、今、私の目前に存在することのすばらしさに心ふるえる想いで接してきました。

今回の視察は、チェコ・スロバキヤとフランスの二国で学校訪問が計画されている。

教育制度が二国同志、それに日本とも異なっているので一口に比

較することは難しいけれど、社会主義国家と自由主義国家の違いこそあれ、共通して言えることは、非常にゆっくりとした教育課程であると云うことです。

チェコは、週五日で毎日午前中で授業は終了。午後は、学校を開放して、めんどうをみてくれるヘルパーが共稼ぎの子どもの相手をしてくれています。中学校では、日本の部活とは違う、自由にやりたい者が学校にきて運動をするという形式をとり、これにも、ちゃんと指導する人がついています。

フランスは、水曜日が休みの週五日制で、こちらは、土曜日以外は午後からも授業を実施しています。

教育の水準は、当然、日本の方が高いと言えますし、それだけ、日本の子どもたちの方が、義務教育期間に学習しなければならぬことが多すぎるとも言えることになりそうです。

チェコが技術者の養成に力を入れ、フランスの工業高校は、企業とタイアップし、企業の求める技術者の育成に努めている様子は、それぞれの国が工業国としての発展をめざしていることが強く感じられました。

進路の選択は、日本よりもこの二国の方が厳しく、早い段階でなされ、教師が、その決定権の多く

を持つてけると言う点では、こわい気もするが、一人一人の子どもの特性を分析して担任以外に、そうしたことを専門にうけもっている指導官が学校に配置されていると云うことであつた。

私たち視察団も前もっていくつかの質問事項を用意していったのですが、その中で今、日本がかかえている大きな問題―生徒指導の問題―が、いかになされているか



を問つてみたのですが、話が全く通じませんでした。

チェコでもフランスでも、返えてきた答えは、しつければ家庭の責任であり、学校の範囲ではないと云うことです。日本も過去はそうであつたはずなのに、多少その

バランスがくずれていることは、反省すべき点ではなからうかと言ふ思いがしました。

そして、この視察の中で感じた一番大きなことは、国を国語を大切にしているということでした。

社会主義国家のチェコ・スロバキヤは、小学校から国を意識・理解させるために、校内に国の歴史の資料を展示した部屋を特設し、フランスは、がんこにフランス語を守り、それぞれのテストの得点の中に、必ず四点が、フランス語の点数として位置づけられています。

その国の国民が、国を理解し、国を愛し、国語を愛する姿に接した時、今、私たち日本人は、どれほど国とか国語とかに関心をはらっているのだろうかと考えさせられました。

日本の学校教育は、多少急ぎすぎのきらいもあります。家庭教育を学校にゆだねすぎる傾向もあります。それは、それで考えていかねばならない課題であることは確かです。しかし、どの国でも感じなかつたもの―それは、授業を通しての人と人とのかわりあいの温かさ―それが日本の教室にはあるということでした。

「サヨナラ」とバスに向かって手を振つてくれた子どもたちの姿が今だ目の底に残ります。

子育てとPTA活動

新山一丁目 佐々川 和子

去る9月24日、高原市PTA連合会母親部会の主催で「子育てとPTA活動」と題して霊丘公民館に於いて園田教育長の講演会が開かれました。平日なのでどれだけの方がお集まりいただけるか心配しましたが、90名程のご参加を頂まして無事終えることが出来ました。教育長のお話は島原弁が飛び交い、楽しくて実のある内容でした。皆様にそのお話をこの紙面を借りましてご報告したいと思えます。

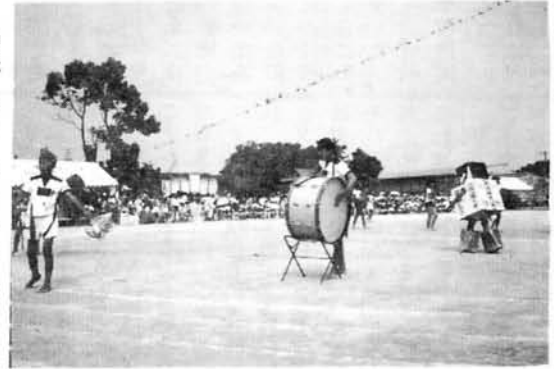
まず、子供を育てることは長い将来を踏まえ子供にどのように生きて行けばよいかをつかませる教育が心要だということをお話しされました。それは、年令に応じた適切な大人の接し方が心要であり、最近では学校や家庭教育共、勉強だけが強調され、他の面が疎かになっていないか。知的教育だけを求めるのでなく、人間としてどう生きなければならぬかという心の教育も同じ位、力を入れて子育てをやってみたいという事を力説されました。PTA活動については、子供は夫婦二人では育てられない、他人のお世話になることが多い。そこで隣近所や周りの大人との付き合いを大切に、子育てをすることが望ましいという考えを持つ意味で、大切な活動であるということをお話しされました。

講演会が終り、質疑応答がありました。なかなかその場では意見も出しにくいものです。母親部会としても次回から講演会の後お母様方から本音を出せるような会をつくりたいと話し合っています。

何かと忙しい昨今ですが、多くのお母様が人の話に耳を傾けていただき、個性豊かな子育てをして下さいませよう期待します。



運動会点描



土俵整備と炊出し

環境部副部長 原賀成子

去る九月七日、土俵整備作業が体育部と共催で行なわれました。作業の力仕事は男性にまかせて

私達女性は、昼食のたきだしを担当しました。まず、十キロの米を手分けしてとぎ、次は水加減です。「こんくらいでよかるかい?」

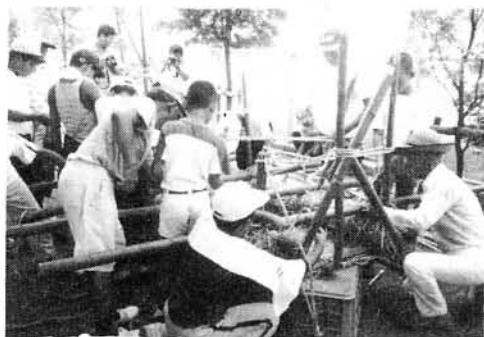
「もうちょこつとふやした方がよかばい」「おにぎりにはすこしかたか方がよかけん、あとちょこつとへらしてみれば」となかなかうまくいきません。そこへ、生活部の高見部長さんがみえ、「こんくらいでよかるう」ということで、

やっとスイッチ・オン、しばらくすると、おにぎりには最高のできばえにふくらみあがり、それからみんなで、「あつい、あつい」と手のひらをまっ赤にさせながらにぎりました。「三角つてむずかしかね。」「もうすこし小さくにぎれば」「私、手のふとかけん無理よ」と、まるで、子供達の調理実習のようなにぎやかさです。十キロの米も、いろいろな形のおにぎりにへんしんした頃、作業もだ、たいすんで、りっぱに

整備された土俵を見ながら、みんなでおいしいおにぎりをいただきました。

恒例になっている「子供クラブ町内対抗相撲大会」も、数年前はまわしをつけるのさえ恥ずかしかった子供が多かったと聞きます。先日の相撲大会で、元気いっぱいとりくんでいる豆力士達を見て、心から拍手を送りました。ご協力くださった皆様、ごころうさまでした。

父親参観に
お父さん
参加しましょう



引き継ごう 精霊船造り

白山地区青少年健全育成協議会
会長 上田 進

白山地区の精霊を子供達の手で造った精霊船で、今西方浄土の旅へ送る切り灯籠の灯が波にゆれ映えています。「パンザイ！ナマイドウ！ヤッター！！」対岸の鬼島に、子供達の歓声が闇を走り貫する。八月十五日 午後八時二十分
 青少年に、スポーツを通して健全育成をめざすことが近年主流となり、練習や試合が年間を通じ、今や過熱気味です。一方、誰でも参加できる行事を通して、豊かな心情を育てるスケッチ大会や、オリエンテーリング、郷土探訪や、伝承遊びのけん玉大会、凧作り、竹細工、餅つき大会等の育成活動も地区ぐるみで推進しています。

今回は「精霊船」という郷土の古い伝統を、子供達に体験伝承させようと試みました。指導者は、江崎前、松本現校長、小島会長、児玉部長はじめ、保護司、民生委員等と計画し、市教委、警察、町内会長にも説明諒承の上実施しました。

- 今、子どもたちは、
- ・汗を流す手伝い等の体験が少なく、あきやすく疲れやすい。
- ・冷水を準備したら殺到し、ガブガブ飲み、渴きをこらえ少しづつ癒す知恵と経験に乏しい。
- ・船を担がせたら手で支え、肩での担ぎ方がわからない。肩で担ぐという体験が全くない。
- ・たべたりのんだり旺盛である。間食なしで空腹感の体験に乏しい。

○今、大人たちは、
 ・子供達へのアンケートの中から、
 ・精霊船を造っているのを今まで見たことがない 八十五%（各町内外注が増え、年一回町内総出のふれあいがなくなりつつある）

・精霊船作りの手伝いをしたことがない 一〇〇%（町内で造る時手伝わせたい。私の町内三十名参加）
 ・お盆や、精霊船の話ははじめて聞いた 九十二%（各家庭で盆の由来など聞かせ、先祖敬愛の心を育てたい）

・精霊船造りの一日はおもしろかった 一〇〇%（子供は未知への探求心や好奇心にみちっています。管理規制の過保護過干渉の反省）
 「精霊船造り」で子供達の今、とそれはなぜか？の大人達は今のいくつかがわかりました。

○今こそ、
 飽食時代の今こそ、大人は少年のみずみずしい心のひだに大事なものを残す責任をおぼえます。学校の成績にのみ親の目の目が注がれるとき、人間の大事なものが少しづつ忘れられ歪んでいきます。郷土の伝統を経験し伝承することで、地域連帯の芽が育ちます。そして「ふるさと」と「仲間たち」への限らない愛着がふくらみます。暑い陽ざしの中、汗を流し、なれない肩で担ぎ、ナマイドウとねり回り、拍手で送った少年達の八月十五日は、これから生きていく人生の中で、強靱で豊かな心のバネを財産としたことと確信しています。
 ※一時間半と、三十分に縮めたビデオテープが公民館にあります。ご活用ください。



しようろう船を
かっいで

六年四組
酒井輝也

毎年見に行く、しようろう船。
 今年は、作ってかっがれると思う
 とうれしくてたまらない。始まった。みんな「おじちゃんこどが
 んすつと、どがん結ぶと」など大
 声が良く聞えた。やつとできあが
 った。当日が来た。かけ声の「ナ
 マイド」と言う言葉とともにかっ
 いだ。最後に回る場所に来た。
 これで最後、くいの残らないよう
 にがんばるぞと思ってかっいだ。
 「ナマイド、ナマイド」とみんな
 も重いのをがまんしながらがっぱ
 った。海に流すときが来た。海に
 船をうかべた。船は、右左にもか
 たむかずしずまなかつた。「パン
 ザイ」とみんな言った。
 また機会があれば、かっきたいと
 思います。

昭和61年度
生活標語
入選作品(2)

「氣をつけて」

朝の一言 忘れずに

緑 三年 吉永 涼子

吉永 雅之

おっだんぼどうは あわてず

ゆっくり わたりますしよ

緑 二年 松崎 愛

松崎 利弘

今日のできごと 話そうよ

一日一回 かくさずに

八幡 二年 林田 英志

林田 俊昭

あいさつは

えがおたやさず げんきよく

八幡 三年 池田 健二

池田 栄子

朝のあいさつ 楽しいえがお

今日も一日 がんばろう

坂上 一年 森本 真典

森本 隆

あいさつは

心の戸びらを 開く声

坂上 五年 長田 展幸

長田 紘幸

だれにでも きちんと

あいさつ 「こんにちば」

新山西 五年 川口真由美

川口 祐一

いじめっ子 出すな

させるな ぼくの町

新山西 四年 湯田 一世

湯田 孝男

明るい あいさつ

大きな 返事

新山二丁目 二年 伊藤 暁子

伊藤 治幸

あいさつは しても

されても いい気持ち

新山二丁目 四年 前田 修宏

前田 良紀

テレビを消して

家族でだんらん 楽しい我が家

新山一丁目 四年 佐々川滝美

佐々川清憲

悪の道 手と手を

つないで とおせんぼ

新山一丁目 四年 入江 恭代

入江 勝幸

笑顔の あいさつ

楽しい 通学路

新山 一年 鍋元みずき

鍋元 好孝

かくし事 なやみ事

何でも話そう お母さんに

新山 四年 中川加奈子

中川 英喜

「おはよう」と

明るい挨拶 元気良く

白土桃山 六年 森本 義純

森本 義憲

三小っ子

いつも やさしい おもいやり

白土桃山 一年 前森千草子

前森 繁康

良い事 悪い事

自分の判断 しっかりと

有馬船津 四年 太田 博昭

太田 昭則

あぶないぞ

車の後ろに また車

津 三年 中島龍太郎

中島 幾郎

きをつけよう

くらい夜道と 悪いゆうわく

蛭子 四年 井川 敬介

井川 善久

いじめっこ 見ぬふりするより

止める 勇気を

蛭子 四年 古井 環

古井 久輝

自分がされて いやな事

するのはやめよう 他人にも

浦田一丁目 一年 徳田可奈子

徳田 秀樹

みんなで まわしましょう

しんせつの キャッチボール

浦田船津上 一年 森塚 友美

森塚 岩美

七月二十七日実施

子どもクラブ町内対抗球技大会

ソフトボールの結果

Aパート

一位 坂上、靈南

二位 栄町、南下川尻

三位 みなと、新山二丁目

Bパート

一位 白土桃山二丁目

二位 新山一丁目、下川尻

三位 浦田元船津

Cパート

一位 崩山、西八幡町

二位 緑町

三位 湊町、浦田船津上

Dパート

一位 白山、蛭子町

二位 坂下、八幡

三位 津町、有馬船津

白土桃山一丁目

フットベースボールの結果

Aパート

一位 下川尻

二位 栄町、新山西、坂下八幡

浦田元船津

三位 西八幡町

Bパート

一位 新山二丁目、湊町

二位 みなと

三位 新山一丁目、崩山

Cパート

一位 白土桃山一丁目

二位 緑町、南下川尻

三位 蛭子町、津町有馬船津

Dパート

一位 坂上、靈南

二位 白山

三位 白土桃山二丁目

浦田船津上

父親参観が
11月に開かれます
お母さんも
参加しましょう